

5 地下水

(1) 地下水の特性と用途

地下水は、一般的に良質で水温変化が少なく、井戸による取水のため大規模な貯水、取水、供給施設を必要とせず、生活用水や工業用水、農業用水等の各種用途に使用されます。

地下水の恒温性等の特性を生かして、消・流雪用水、養魚用水等にも使用されるなど、幅広く使用されている貴重な水資源です。

なお、地下水利用技術の発展や需要の増大に伴い、浅層の地下水利用のほか、降雨等の気象の影響を受けにくい深層の地下水の利用も行われています。

しかし、大量の地下水を採取することによって地下水位の低下に伴う地盤沈下等を引き起こすこともあるため、適正な管理を行いつつ、利用していく必要があります。

(2) 地下水の賦存状況

地下水は地形や地質と密接に関係しています。浅層の地下水を含む帯水層（流動する地下水を包蔵する層）が存在する代表的な地形に扇状地があり、十勝・石狩・函館などに分布しています。

深層の地下水を含む帯水層は、主に深川から札幌と、札幌から苫小牧にかけての石狩平野、勇払平野や十勝平野、釧路湿原から根釧台地にかけての地域、上川盆地などに分布しており、主に日高山脈、天塩山地、北見山地などの地層では、流動する地下水が存在していません。

なお、地下水がないと思われていた地域でも、ボーリングの結果、岩盤の割れ目などにある地下水が得られることがあります。

(3) 地下水への依存度

北海道は全国と比べて地下水への依存度が低く、使用形態別に見ると、都市用水（生活用水、工業用水）で地下水依存率が8.2%と、全国平均の23.1%を下回っています。

また、農業用水に占める地下水依存率も0.6%と、全国平均を下回っています。

(P8：図2-4-1、図2-4-2、図2-4-3、図2-4-4参照)

(4) 上水道、簡易水道における地下水の取水割合等

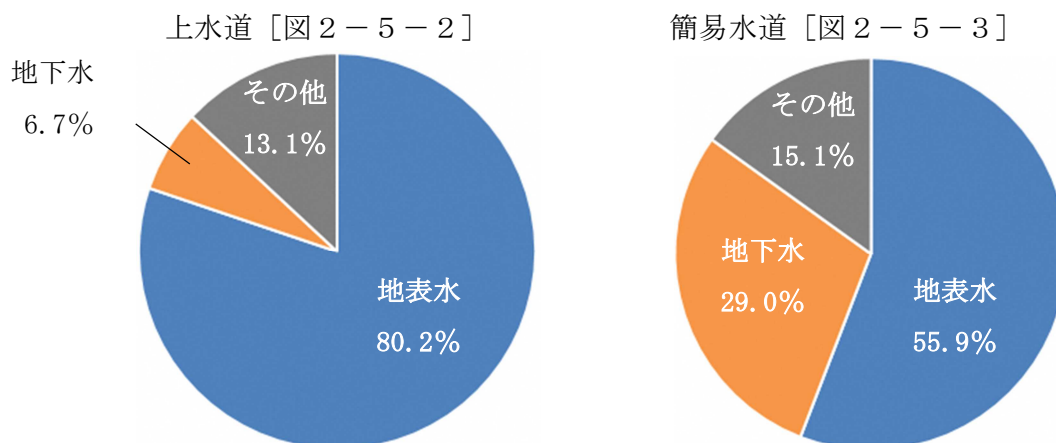
令和元年度の道内の上水道、簡易水道での取水量に占める地下水（伏流水、浅井戸、深井戸）の割合は、上水道で6.7%、簡易水道で29.0%、上水道と簡易水道を合わせると9.4%です。

なお、道内の水道事業において河川水等を水源とせず、地下水だけを使用している地域は、令和元年度で12町村あります。

(P36：参考表2-5-1、図2-5-2、図2-5-3参照)

このほか、東川町では水道事業による水供給を行わず、一般家庭、企業等は自ら地下水を汲み上げて使用しています。

◆北海道の上水道及び簡易水道の水源別取水量割合（令和元年度）



(注) 1. 上水道取水量 574,157 千 m^3 、簡易水道取水量 78,496 千 m^3

2. 地表水：ダム直接・放流、湖沼水、表流（自流水）

地下水：伏流水、浅井戸、深井戸

その他：湧水、受水

出典：環境生活部「令和元年度 北海道の水道」から

【道内の名水】

昭和 60 年、環境庁（現環境省）において、全国の清澄な水を再発見し、広く国民に紹介することを目的として「名水百選」を選定しました。

道内からは次の 3 箇所が選定されています。

○後志管内京極町「羊蹄のふきだし湧水」

○石狩管内千歳市「ナイベツ川湧水」

○宗谷管内利尻富士町「甘露泉水」

また、平成 20 年には、北海道洞爺湖サミットの開催にちなみ、水環境の更なる推進を図ることを目的として、住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動が行われているものについて、新たに「平成の名水百選」として選定しました。

道内からは次の 2 箇所が選定されています。

○上川管内美深町「仁宇布の冷水と十六滝」

○上川管内東川町「大雪旭岳源水」